

# オーケストラ ファンド

(安定コース) / (成長コース)

追加型投信 / 内外 / 資産複合

Orchestra Fund

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」  
をご覧ください。



■ お申し込み・目論見書のご請求は

■ 設定・運用は



商号等：キャピタル アセットマネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第383号  
 加入協会：一般社団法人 投資信託協会  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会

# 「オーケストラ ファンド」の特色



- 1. 世界中のファンドを厳選し、「オーケストラ」\*を構築します。**
  - ・世界中から優れたファンドを厳選します。
  - ・世界中の名立たる機関投資家が利用する運用手法を受益者のみなさまへ提供します。
- 2. 国際分散投資を行い、分散投資効果を追求します。**
  - ・先進国や新興国の株式、債券、通貨等、国際的かつ多種多様な資産へ分散投資することによりリスクを分散し、値動きを抑え、良好なリスク・リターンのバランスを目指します。
- 3. オルタナティブへの投資を通じ、下振れリスクの抑制を目指します。**
  - ・保有資産の価値の減少を抑制するため、投資対象ファンドを通じて、オルタナティブ投資を活用します。
- 4. 2つのコースから選べます。**
  - ・安定コース 安定的な運用を目指します。
  - ・成長コース 安定コースと比較して積極的な運用を目指します。
- 5. ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。**
  - ・ファンド・オブ・ファンズ方式とは、株式や債券等の資産に直接投資するのではなく、株式や債券等に投資している複数の投資信託に投資して、運用を行う仕組みです。
- 6. 運用に当たっては、しさん設計株式会社から投資助言を受けます。**

\*「オーケストラ」とは、管弦楽を演奏する楽団を意味し、当ファンドの特色を表現しています。



# 1. 世界中のファンドを厳選し、「オーケストラ」を構築します



## ■ 世界中から優れたファンドを厳選します。

- ・ 過去の良好なパフォーマンスに加え、下落幅の抑制効果に優れているファンド
- ・ 運用実績と経験が豊富な運用会社のファンド

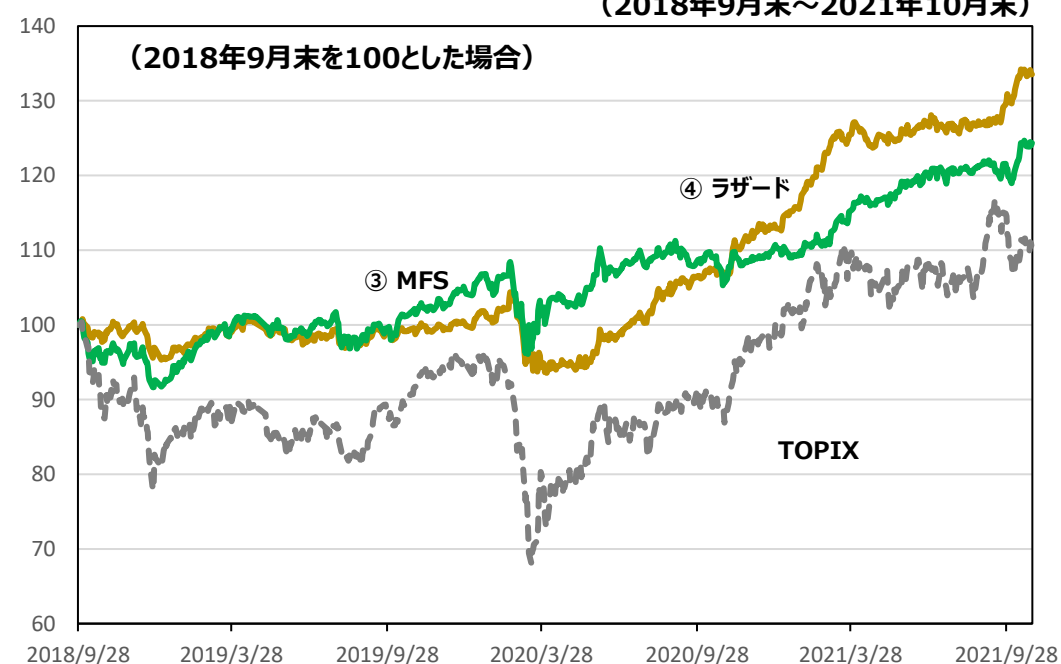
### (1) マーケットの動きと相関が弱い投資対象ファンド

(2018年9月末～2021年10月末)



### (2) 下落幅の抑制効果に優れている投資対象ファンド

(2018年9月末～2021年10月末)



① マン・アンブレラ・SICAV - マン・AHL・アルファ・コア・オルタナティブ IN H JPY Acc (円ヘッジ)

② DMS UCITS コリブ・プラットフォーム ICAV - ABR ダイナミック・ブレンド エクイティ & ボラティリティ・ファンド I クラス と同じ運用モデルで運用したマスターファンドより、I クラスと同じ運用管理手数料 (年率1.75%) を差引き指数化したシミュレーション結果 (出所: ABR ダイナミック・ファンズ・エルエルシー) (円換算)

③ MFSメリディアン・ファンズ - ブルーデント・キャピタル・ファンド I1 USD シェアクラス (円換算)

④ ラザード・グローバル・インベスメント・ファンズ・plc - ラザード・ラスモア・オルタナティブ・ファンド A Acc USD シェアクラス (円換算)。状況に応じて異なるクラスを投資対象とする可能性があります。

\*ブルームバーグ、及びABR ダイナミック・ファンズ・エルエルシーよりのデータを基に、キャピタル アセットマネジメント株式会社が作成。上記のチャートにおいて①、③、④ とTOPIXは過去の実績ですが、②ABR指数はシミュレーション結果で実績ではありません。上記のチャートは当ファンドの将来の運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。



# 投資対象ファンドの運用会社のご紹介



運用会社名	設立年	運用資産残高* (兆円)	グループ 本社所在地	特 徴
野村アセットマネジメント株式会社	1959年	69.3	日本 東京	野村グループにおけるインベストメント・マネジメント部門の中核会社。日本国内をはじめ北米、中南米、アジア、欧州などグローバルに資産運用ビジネスを展開しています。世界で第5位のETF（上場投資信託）の運用残高、国内投資信託のマーケットシェア首位を有します。役職員数1,404名。（2020年12月末）
コムジエスト・アセットマネジメント株式会社	1985年 (コムジエスト・グループ創業)	5.4 (2021年6月末) (コムジエスト・グループ全体)	フランス パリ	コムジエスト・グループの東京法人です。同グループは1985年設立のフランス初の独立系資産運用会社で、パリ、ダブリン、香港、東京、シンガポール、ボストンなどに拠点を有し、株式のみのアクティブ運用に特化しています。世界中に存在する長期的に高い利益成長を持続できると想定する質の高い企業を「クオリティグロース企業」と位置づけ、集中投資を行うことに定評があります。全ての運用戦略が共通の投資哲学、投資アプローチによって運用され、銘柄選択を収益の源泉としています。主要顧客は公的年金、企業年金、金融法人等です。
AHL パートナーズ LLP	1989年 (マン・グループ傘下加入)	15.5 (マン・グループ全体)	英国 ロンドン	1783年創業の会社を起源とするマン・グループの傘下の会社で、クオンツ・マルチアセット運用に従事し、運用資産総額約6兆円です。マン・グループはロンドン市場等に上場し、世界の主要都市に拠点を構えグローバルに事業を展開し、ロングオンリー戦略とヘッジファンド戦略の両戦略において、先進的かつ革新的な投資機会を提供しています。グループ全体の従業員数は約1,400人。主要顧客はソブリンウェルスファンド、財団、年金基金を含む世界の機関投資家などが中心です。
マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービス・カンパニー	1924年	73.1	米国 ボストン	1924年創業の米国最古の資産運用会社の1社で、グローバルに9つのリサーチ拠点を構え、社員数約2,000名（2021年9月末）です。チーム・カルチャーから独自の投資アイデアを創出し、チームで投資アイデアを共有する体制となっています。ブルーデント・キャピタル戦略では、ダウンサイドリスクの管理を重視します。
ラザード・アセット・マネジメント・エルエルシー	1970年	26.7	米国 ニューヨーク	170余年の歴史を持つ投資銀行（ラザード・フレール・アンド・カンパニー）の投資運用サービス部門として1970年に設立されました。世界17カ国の拠点においてグローバルな運用体制とネットワークを展開しています。ラザード・アセット・マネージメント・グループ全体の役職員数800名超となっています。主な顧客は主要各国の機関投資家で、個別ニーズに沿った幅広い運用戦略をそろえています。
ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド	1981年 (米国本社創業)	72.6 (ディメンショナル・グループ全体)	米国 オースティン	ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・エルピー（米国）の英国子会社です。ディメンショナル・グループは世界有数の運用会社の1つであり、学術的見地・知見に基づいた実証研究に裏付けされた独自の運用哲学による運用に定評があります。米国を中心に欧州、アジアとグローバルに展開し、世界各地での顧客や学術界との深い協働、お客様へのコミットメントを礎に、学術研究を投資戦略の設計・運用に応用しています。グループ全体の従業員数は1,400名以上、主要顧客層は、機関投資家、公的・私的年金基金等です。
ABR ダイナミック・ファンズ・エルエルシー	2015年	0.1	米国 ニューヨーク	米国ニューヨークを拠点とするクオンツ運用の専門集団です。株式市場の恐怖指数と呼ばれ、市場混乱時に急上昇するVIX指数の特性を活かした独自のクオンツ運用手法により、リスク当りのリターンが最大化され、かつ長期安定的な資産形成に役立つ運用を目指しています。

\* 特定時期の記載がないものは2021年9月末現在。為替レートは2021年9月末の値を使用。（US\$ = 111.29円）



## 2. 国際分散投資を行い、分散投資効果を追求します



### ■ 投資対象ファンドのご紹介（1）

先進国や新興国の株式、債券、通貨等、国際的かつ多種多様な資産へ分散投資することにより、リスクを分散します。

	投資対象ファンド	国籍	通貨	運用会社	主な投資対象等
A	コムジエスト世界株式ファンド (適格機関投資家限定)	日本	円	コムジエスト・アセットマネジメント株式会社	コムジエスト・エス・エー社に世界中の企業が発行する株式等の運用指図権限を委託している親投資信託受益証券への投資を通して、主としてわが国および新興国を含む世界中の企業が発行する株式等に投資し、長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。世界の株式市場から厳選された30~50銘柄へ選別投資を行います。
B	ディメンショナル・ファンズ・PLC - グローバル・ターゲティッド・バリュース・ファンド JPY アキュムレーション シェアーズ	アイルランド	円 (ヘッジなし)	ディメンショナル・ファンド・アドバイザーズ・リミテッド	先進国の中小型バリュー株を主要投資対象とし、20%以下を新興国市場に投資し、長期的なトータル・リターンを最大化することを投資目的とします。独自の投資哲学に基づくシステム運用にて、世界20数か国から組入れ銘柄数は4,000超と分散投資を図ります。
C	ラザード・グローバル・インベストメント・ファンズ PLC - ラザード・ラスモア・オルタナティブ・ファンド (A Acc USD / C Acc USD)	アイルランド	米ドル	ラザード・アセット・マネジメント・エルエルシー	主にCB（転換社債型新株予約権付社債）および株式に関連するトータル・リターン・スワップ取引などデリバティブ取引にかかる権利ならびに国債などを投資対象とします。また、CBおよび株式などに直接投資を行う場合があります。主に米国企業発行の転換社債と株式との裁定取引を行います。厳格なリスク管理により安定的な収益を目指すオルタナティブ戦略です。
D	MFSメリディアン・ファンズ - ブルーデント・キャピタル・ファンド (i1 USD)	ルクセンブルグ	米ドル	マサチューセッツ・フィナンシャル・サービス・カンパニー	日本を含む世界の株式および債券ならびに現金（同等物を含みます）を主要対象とします。株式の銘柄選択にあたっては、ボトムアップ・アプローチによるファンダメンタルズ分析に基づき、バリュエーションに留意しつつ、景気変動の影響を受けにくい堅固なビジネスモデルを持つ最も確信度の高い銘柄を厳選します。株式（組入比率：50~90%、銘柄数：20~40銘柄）、社債（組入比率：10~30%、銘柄数：5~50銘柄）に厳選投資を行い、地域や業種では分散投資を図ります。

\* 投資対象ファンドの背景色は、ピンク系（A, B, D）は株式投資、ブルー系（C）はオルタナティブ投資を表します。

\* 投資対象ファンドは定性評価やパフォーマンス等を勘案して適宜見直しを行います。その際、投資対象ファンドを組入れから外したり、新たなファンドを組入れる場合もあります。





## ■ 投資対象ファンドのご紹介（2）

	投資対象ファンド	国籍	通貨	運用会社	主な投資対象等
E	ノムラ・ファンズ・アイルランド - グローバル・ダイナミック・ボンド・ファンド - I JPY ヘッジドクラス	アイルランド	円 (ヘッジ付)	ノムラ・アセット・ マネジメント U.K. リミテッド	企業、リミテッド・ライアビリティ・カンパニー、リミテッド・パートナーシップ、政府、政府機関および国際機関等が発行する固定利付および変動利付（物価やその他指数に連動するもの）の債券および債券関連証券等を主要投資対象とします。なお、投資にあたってはデリバティブ取引も活用します。欧米の債券への投資と、先物等にてのヘッジを行う債券アンコンストレインド運用です。
F	システムティック・グローバル・マクロ戦略ファンド F (適格機関投資家専用)	日本	円	野村アセットマネジメント 株式会社	内外の公社債および短期有価証券を実質的な主要投資対象とし、先進国の株価指数先物取引、債券先物取引等の有価証券先物取引等および為替予約取引等を実質的な主要取引対象とします。時間軸の分散等にてリスクを分散し、またロスカット・ルールによりリスクが管理されるオルタナティブ戦略です。
G	DMS UCITS コリブ・プラットフォーム ICAV - ABR ダイナミック・ブレンド エクイティ & ボラティリティ・ファンド I クラス	アイルランド	米ドル	ABR ダイナミック・ ファンズ・エルエルシー	ダイナミックな投資リターンを測定する戦略に基づいて、パフォーマンスを追求することを投資目的とします。通常ファンドの純資産額の80%以上を先物に投資します。米国株式指数先物とVIX指数先物への投資比率を変動させ、収益獲得を目指すオルタナティブ戦略です。
H	マン・アンブレラ・SICAV - マン・AHL・アルファコア・オルタナティブ - 日本円クラス (ヘッジ付)	ルクセンブルグ	円 (ヘッジ付)	AHL パートナーズ LLP	先進国および新興国の株価指数先物取引、債券先物取引、金利先物取引および為替先物取引等を積極的に活用し、主として市場動向の方向性に沿って多数の先物等についてロングポジションまたはショートポジションを構築することにより、中期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。独自のプログラムにて運用され、市場混乱時はリスク抑制プログラムが作動するなど、リスクが管理されるオルタナティブ戦略です。
I	SPDR ポートフォリオ 米国物価連動国債 ETF	米国	米ドル	ステート・ストリート・ グローバル・アドバイザーズ・ ファンズ・マネジメント INC.	米国の物価指数に応じて債券の元本が調整される米国物価連動国債を組み入れ、ブルームバーグ・バークレイズ米国政府物価連動債指数に連動する投資成果を目指す上場投資信託（ETF）です。

\* 投資対象ファンドの背景色は、ブルー系（E, F, G, H）はオルタナティブ投資、黄色（I）は債券投資を表します。

\* 投資対象ファンドは定性評価やパフォーマンス等を勘案して適宜見直しを行います。その際、投資対象ファンドを組入れから外したり、新たなファンドを組入れる場合もあります。



# 3. オルタナティブへの投資を通じ、下振れリスクの抑制を目指します



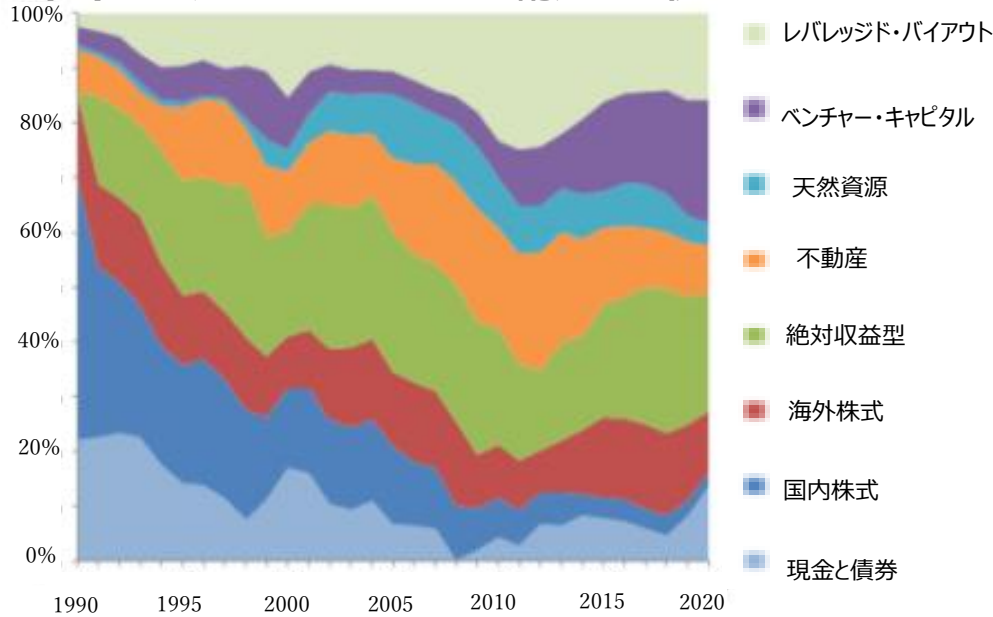
## ■ 「国際分散投資」に「オルタナティブ投資」を加えます

- ・ 国際分散投資に「オルタナティブ投資」を加えることで、インデックス運用では成しえないパフォーマンスの改善とリスクの低減を図ります。
- ・ 国債への投資に過度に依存しないなど、伝統的な投資手法にとらわれない運用を行います。
- ・ リスクを抑制した運用により、「ゴールベース・アプローチ」\* に適した運用を目指します。
- ・ 一流指揮者と同様に「巧みな倍音」を活用し、“オーケストラ”を奏でるような運用を目指します。

\* 「ゴールベース・アプローチ」とは、投資家であるひとりひとりの人生設計に基づき目標（ゴール）を決め、そこから逆算して運用計画を策定します。ゴールに対するアプローチは一律ではありませんが、長期安定的な運用が行われる必要があり、リスクを低減することが重要となります。

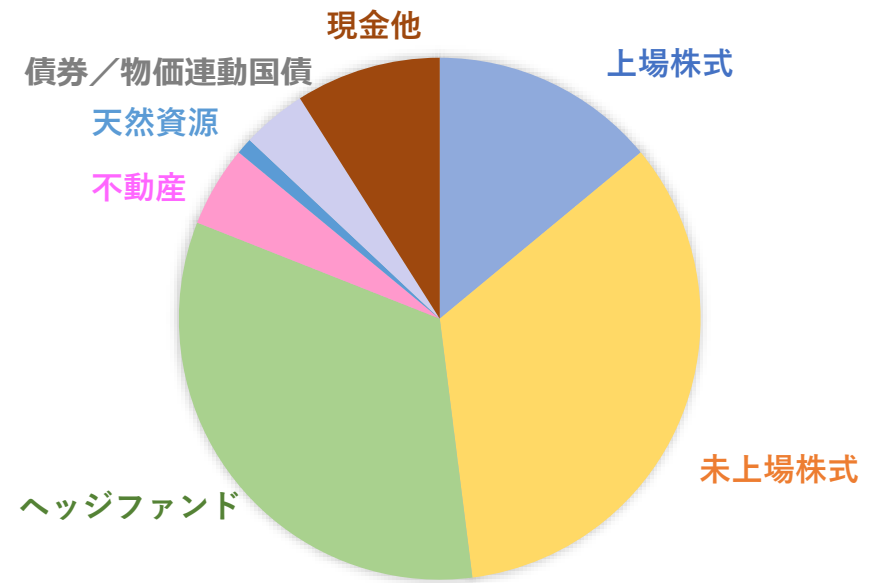
### <米国の名門大学基金の資産配分例>

(1) エール大学の基金の資産配分の推移



<出所> エール大学、The Investment Office

(2) ハーバード大学の基金の資産配分（2021年6月末）



<出所> ハーバード大学、Harvard Management Company  
キャピタルアセットマネジメント株式会社にて円グラフ化





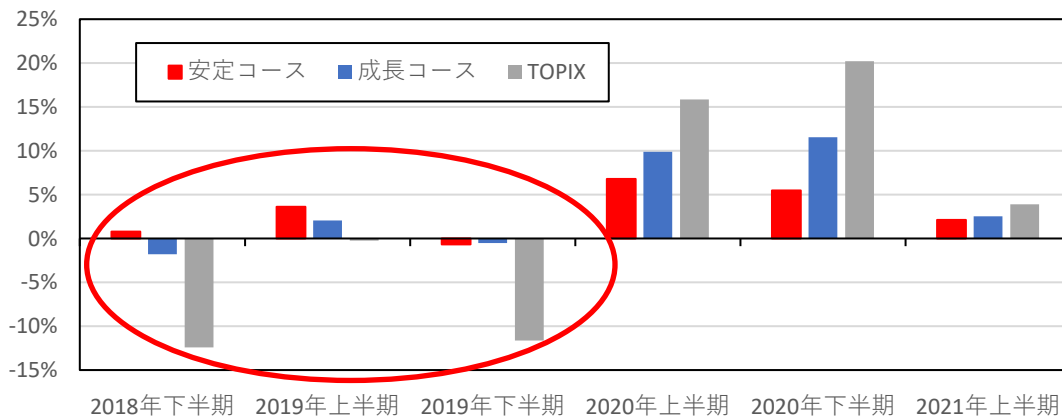
# ■ オルタナティブ投資効果のシミュレーション

## (1) 安定コースと成長コースとTOPIXの比較 (2018年9月末～2021年10月末)

(2018年9月末を100とした場合)



## (2) 半期毎のシミュレーション (2018年9月末～2021年10月末)



2018年下半期 2019年上半期 2019年下半期 2020年上半期 2020年下半期 2021年上半期

\* 上記の表やチャートにおいてTOPIXは過去の実績ですが、**安定コースと成長コースは投資対象ファンドの組入比率によるポートフォリオのシミュレーション結果であり、実績ではありません。**当ファンドの将来の運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。

## (3) リスク・リターンシミュレーション

(計測期間：2018年9月末～2021年10月末)

	安定コース	成長コース	TOPIX
リターン (年率) (a)	6.7%	8.8%	3.2%
リスク (年率) (b)	4.9%	8.5%	18.4%
シャープ・レシオ (a/b)	1.37	1.04	0.18

### <シミュレーション結果>

- ①米中貿易摩擦局面、②コロナショック局面において下落幅抑制効果が発揮され、安定コース、成長コースともに、下落幅が限定的であることが判ります。
- 局面①を含む2018年下半期（2018年10月～2019年3月末）や、局面②を含む2019年下半期（2019年10月～2020年3月末）の半年間の結果では、TOPIXが10%超のマイナスリターンとなっているのに対し、安定コース、成長コースともに小さなマイナスリターンに留まっています。
- その結果、直近3年1か月間の結果では、リスクはTOPIXと比較し、安定コースでは1/3未満、成長コースでは1/2未満と低く抑えられているのに対し、リターンはそれぞれのコースでTOPIXの2倍強、3倍弱と堅調な結果が示されています。

\*ブルームバーグ、及びしさん設計株式会社よりのデータを基にキャピタル アセットマネジメント株式会社が作成





# 4. 2つのコースから選べます



「安定コース」 安定的な運用を目指します。

「成長コース」 安定コースと比較して積極的な運用を目指します。

投資対象ファンド	
A	コムジエスト世界株式ファンド (適格機関投資家限定)
B	ディメンショナル・ファンズ・PLC - グローバル・ターゲティッド・バリュー・ファンド JPY アキュムレーション シェアーズ
C	ラザード・グローバル・インベスメント・ファンズ PLC - ラザード・ラスモア・オルタナティブ・ファンド (A Acc USD / C Acc USD)
D	MFSメリディアン・ファンズ - プルードント・キャピタル・ファンド (i1 USD)
E	ノムラ・ファンズ・アイルランド - グローバル・ダイナミック・ボンド・ファンド - I JPY ヘッジクラス
F	システマティック・グローバル・マクロ戦略ファンド F (適格機関投資家専用)
G	DMS UCITS コリブ・プラットフォーム ICAV - ABR ダイナミック・ブレンド エクイティ & ボラティリティ・ファンド I クラス
H	マン・アンブレラ・SICAV - マン・AHL・アルファコア・オルタナティブ - 日本円クラス (ヘッジ付き)
I	SPDR ポートフォリオ 米国物価連動国債 ETF

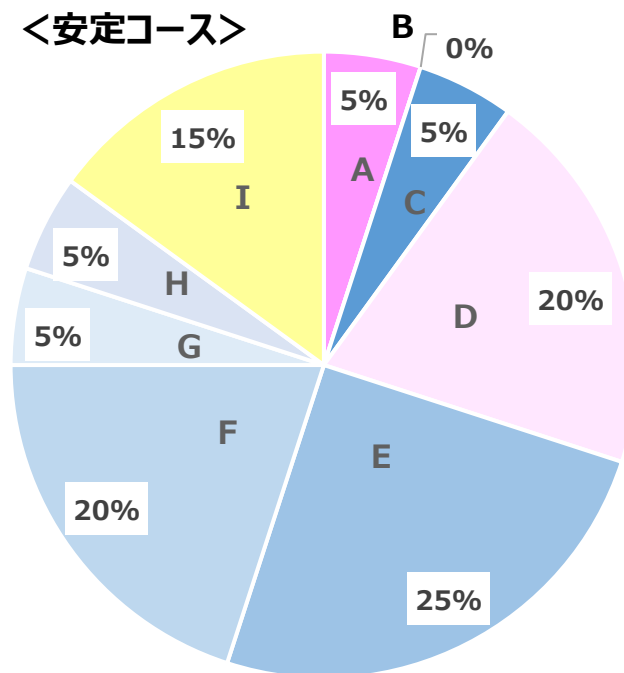
## <安定コース/成長コースの資産別組入比率>

	株 式	債 券	オルタナティブ
安定コース	25%	15%	60%
成長コース	40%	0%	60%

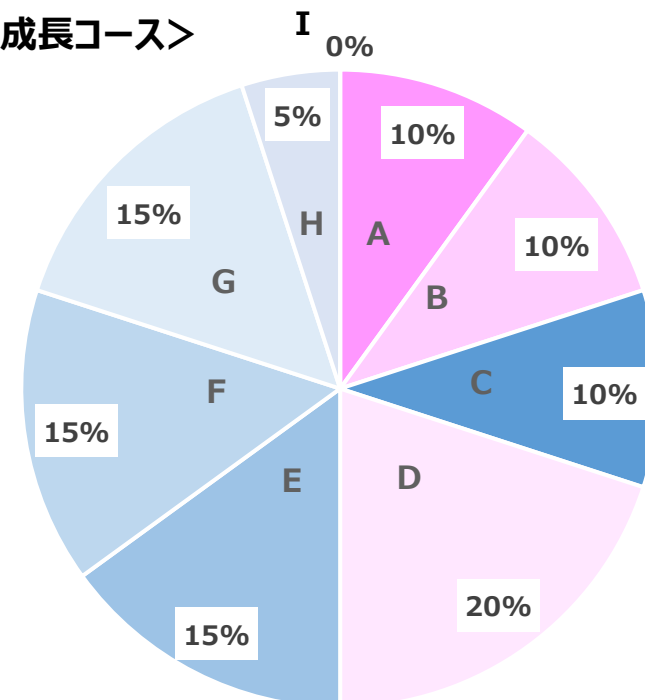
\* 新規設定当初、上記資産配分を目指します。  
\* 上記は当面のイメージであり、実際の資産配分比率とは異なる場合があります。  
\* 資産配分は、1年に1回程度検証を行い、必要に応じて見直しを行います。

## <投資対象ファンドの組入比率>

### <安定コース>



### <成長コース>



\* ピンク系 (A,B,D) は株式投資、ブルー系 (C,E,F,G,H) はオルタナティブ投資、黄色 (I) は債券投資を表します。

\* 投資対象ファンドは定性評価やパフォーマンス等を勘案して適宜見直しを行います。その際、投資対象ファンドを組入れから外したり、新たなファンドを組入れる場合もあります。  
投資対象ファンドの組入比率は、経済環境、市場動向により見直しを行います。

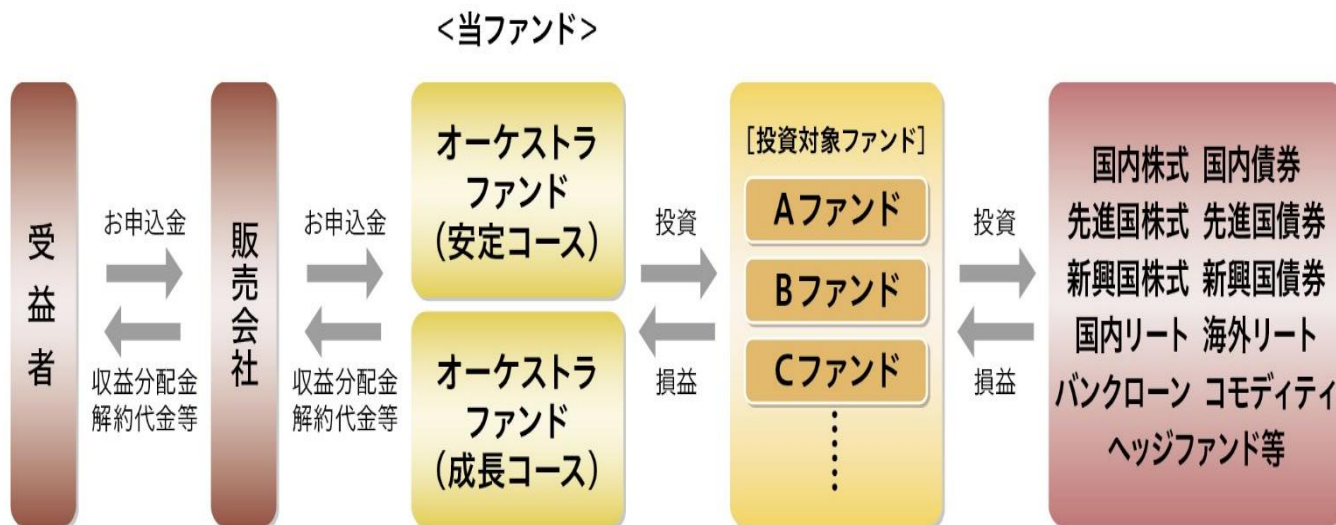


# 5. ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します

# 6. 運用に当たっては、しさん設計株式会社から投資助言を受けます



## < ファンドの仕組み >



## < 助言会社 しさん設計株式会社 >

代表取締役、CIO 鈴木頼長

慶應義塾大学 経済学部卒業後、三井信託銀行 (現: 三井住友信託銀行) と野村アセットマネジメントにて、企業調査アナリスト、及び運用 (クオンツ運用、ストラテジー策定総責任者) に従事。大手IFA法人を経て、2021年4月、しさん設計株式会社を設立。

機関投資家のみがアクセスできた高度な金融理論を開放することで、日本の個人投資家の「しさん設計」に貢献するための会社です。

しさん設計株式会社

〒160-0022

東京都新宿区新宿2-1-14 エレメンツ新宿ビル502



登録 関東財務局長 (金商) 第 3298 号

投資顧問業協会 会員番号 012-02974

資本金: 7百万円 設立: 2021年4月

## < 委託会社 キャピタル アセットマネジメント株式会社 >

当ファンドの設定・運用を行います。



キャピタル アセットマネジメント株式会社

〒101-0047

東京都千代田区内神田1-13-7 四国ビルディング9階

資本金: 280百万円 設立: 2004年1月26日

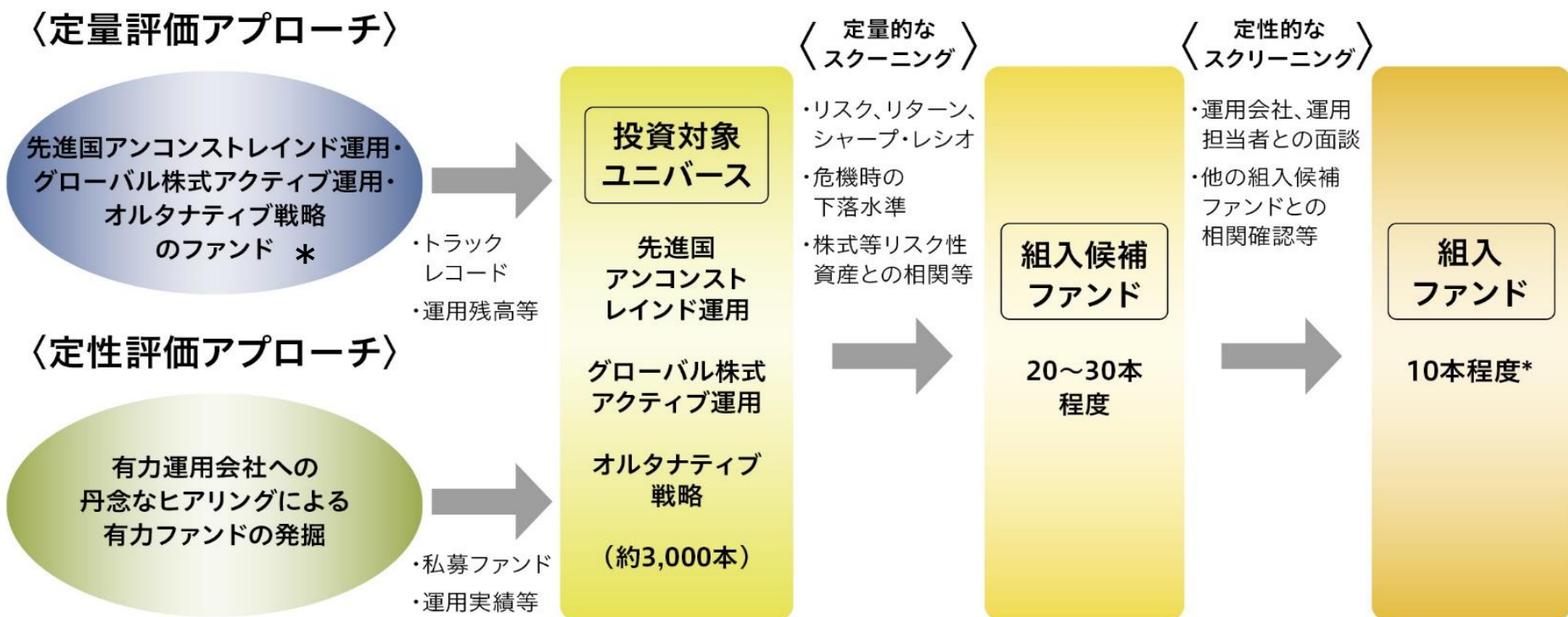
金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第383号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会



# ポートフォリオ構築プロセス



\* 経済環境・  
市場動向により、  
年1回程度を目途に  
投資配分比率を  
見直します。

- \* 「アンコンストレインド運用」とは、特定のベンチマークや投資対象クラス等に拘束されない（unconstrained）運用を表します。運用者は既定の投資テーマやアイデアに沿って、幅広い裁量を持って運用することが可能となります。
- \* 「アクティブ運用」とは、運用ガイドラインに従って運用者の判断によって指数等のベンチマークを上回る投資収益を目指す運用スタイルのことです。
- \* 「オルタナティブ戦略」とは伝統的な投資対象資産である上場株式、債券に対する「代替的（オルタナティブ）」な投資資産に投資を行う戦略の総称です。





## ■ 株式に近いリターンを「極力低リスク」で実現を目指します

- ・ 運用者の基本コンセプト：「資金を増やす鍵 = 大きく失わない」
- ・ プルーデント・キャピタル・ファンドの資産総額：約6,180億円（2021年10月末）

### 運用手法：

世界の株式（組入れ比率：50～90%）、社債（同：10～30%）中心に投資を行います。現金へも最大で40%の配分があり、現金への投資のコントロールも行います。

長期投資の理念に基づき「ベスト・アイデア銘柄」として株式（20～40銘柄）、社債（5～50銘柄）に投資を行い、地域や業種は集中を避けて分散投資を図っています。

MFS メリディアン・ファンズ - プルーデント・キャピタル・ファンド  
(2016年11月3日～2021年10月末、円換算)



\* MFS メリディアン・ファンズ - プルーデント・キャピタル・ファンド (i1 USD) (円換算)

\* ブルームバーグのデータを基に、キャピタル アセットマネジメント株式会社が作成。上記のチャートにおいて、投資対象ファンドやTOPIXは過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。



# <ご参考> 組入れファンド紹介 (2) DMS UCITS コリブ・プラットフォーム ICAV – ABR ダイナミック・ブレンド エクイティ & ボラティリティ・ファンド I クラス

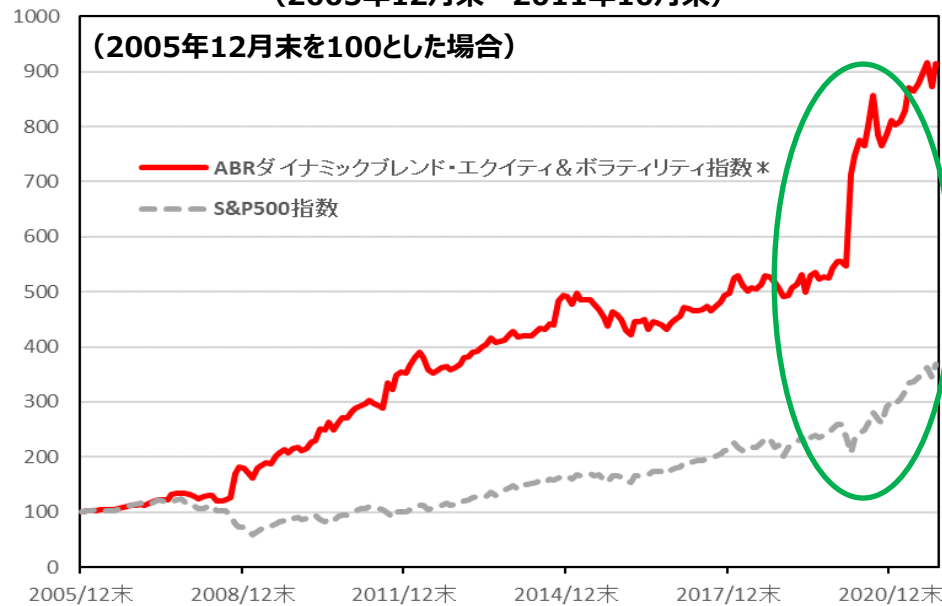


## ■ 米国株式市場混乱時に大きなリターンの実現を目指します。

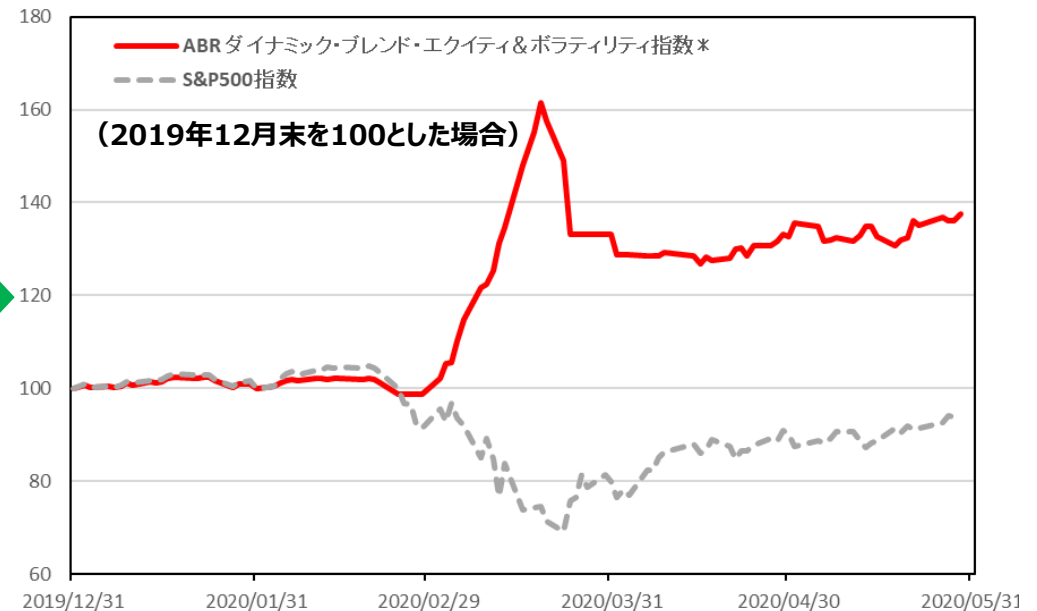
- ・ 米国株式指数先物へ投資します。市場混乱時は、株式投資比率を引下げ、VIX指数先物への投資比率を引上げるにより収益の獲得を目指します。本ファンドと同じモデルで運用されている米国のミューチュアルファンド（2015年8月設定）と、当ファンドを含むUCITS\* サブファンド合わせた運用資産残高は約390億円です。（2021年10月末）

\* UCITSとは、EU（欧州連合）の法律に従って設定・運用されるファンドで欧州版の投資信託です。運用手法やリスク管理、情報開示などにおいて投資家保護の観点から厳しい基準が設けられています。

ABR ダイナミック・ブレンド エクイティ & ボラティリティ指数  
(2005年12月末～2011年10月末)



コロナ・ショック前後のパフォーマンス比較 (2019年2月末～2020年5月末)



\* DMS UCITS コリブ・プラットフォーム ICAV – ABR ダイナミック・ブレンド エクイティ & ボラティリティ・ファンド I クラス と同じ運用モデルで運用したマスターファンドより、I クラスと同じ運用管理手数料（年率1.75%）を差引き指数化したシミュレーション結果（出所：ABR ダイナミック・ファンズ・エルエルシー）

\* 上記の表やチャートにおいてS&P500指数は過去の実績ですが、**ABRダイナミック・ブレンド・エクイティ&ボラティリティ指数はシミュレーション結果であり、実績ではありません。**当ファンドの将来の運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。



# 手続・手数料（安定コース） / （成長コース）



## お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。 ※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
購入価額	当初申込期間：1口当たり1円 継続申込期間：購入申込受付翌営業日の基準価額
購入申込期間	当初申込期間：2021年12月13日から2021年12月23日まで 継続申込期間：2021年12月24日から2023年3月15日まで
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位とします。
換金価額	換金申込受付翌営業日の基準価額から0.1%（信託財産留保額）を控除した価額となります。
換金代金	原則、換金申込受付日から起算して9営業日目から、お申込みの販売会社にてお支払います。
購入・換金 申込不可日	ニューヨーク、ロンドン、アイルランドの金融商品取引所及び銀行の休業日には申込の受付を行いません。
信託期間	2021年12月24日（設定日）から2031年12月15日まで
決算日	毎年12月15日（休業日の場合は翌営業日） なお、第1計算期間は2021年12月24日から2022年12月15日までとします。
収益分配	年1回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 ※上記は、2021年9月末現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。

## ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用				
購入時手数料	購入価額に <b>3.3%（税抜3.0%）</b> を上限として、販売会社がそれぞれ定める手数料率を乗じて得た額とします。 「自動継続投資コース」により収益分配金を再投資する場合の申込手数料は、無手数料とします。	販売会社によるファンドの募集・販売の取扱い事務等の対価		
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して <b>0.1%</b>			
投資者が信託財産で間接的に負担する費用				
運用管理費用 （信託報酬）	当ファンド	支払先	内訳(税抜)	主な役務
		委託会社	年0.62%	委託した資金の運用の対価
		販売会社	年0.57%	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
	受託会社	年0.06%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価	
	投資対象とする投資信託証券	純資産総額に対して <b>年0.825%～1.025%程度（税込）</b>		投資対象とする投資信託証券に係る信託財産の運用、基準価額の計算、運用財産の管理等の対価
	実質的な負担	純資産総額に対して <b>年2.2～2.4%±0.2%程度（税込）</b> ※投資対象ファンドの実際の組入れ状況により変動します。なお、投資対象ファンドによっては、別途運用実績に基づき計算される成功報酬額がかかる場合があります。		
その他の費用・手数料	有価証券等の取引に伴う手数料（売買委託手数料、保管手数料等）、監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等が信託財産から支払われます。 ※その他の費用・手数料は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。			

※ファンドの費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

<委託会社>	キャピタル アセットマネジメント株式会社
<受託会社>	三井住友信託銀行株式会社
<販売会社>	表紙に記載の販売会社をご覧ください。





当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、世界各国の債券、株式、通貨、それらに関連するデリバティブ取引等の金融商品など値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。当ファンドに生じた利益および損失は、すべて投資家の皆様に帰属することになります。投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額は、主に以下のリスク要因により、変動することが想定されます。

## ■ 株式の価格変動リスク

当ファンドは実質的に株式に投資を行いますので、株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。このような場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

## ■ 為替変動リスク

投資している通貨が円に対して強く（円安に）なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く（円高に）なればファンドの基準価額の下落要因となります。したがって、投資している通貨が対円で下落した場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

## ■ 金利変動リスク

債券、バンクローン等の価格は、一般的に金利低下（上昇）した場合は値上がり（値下がり）します。なお、債券、バンクローン等が変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者等の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。加えて、物価連動債券の価格は、物価変動及び将来の物価変動に対する市場予想の変化によっても変動します。債券、バンクローン等の価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

## ■ リートの価格変動リスク

リーの価格は、不動産市況（不動産稼働率、賃貸料、不動産価格など）、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制などの変更、災害などの要因により変動します。また、リートおよびリーの運用会社の業績、財務状況の変化などにより価格が変動し、基準価額の変動要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません



# 投資リスク（続き）



## ■ 商品（コモデティ）の価格変動リスク

商品の価格は、需給関係や為替、金利変動等の様々な要因により大きく変動します。需給関係は、天候、作況、生産国（産出国）の政治、経済、社会情勢の変化等に影響を大きく受けます。商品価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

## ■ ヘッジファンドの運用手法にかかるリスク

投資対象ファンドにおいては、直接もしくは実質的に現物有価証券、デリバティブや為替予約取引等の買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、投資対象ファンドの純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、投資対象ファンドの基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。

## ■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

## ■ 信用リスク

有価証券を発行する企業が、経営不安・倒産等に陥った場合、投資した資金が回収できなくなることがあります。また、こうした状況に陥ると予想された場合、当該企業の有価証券等の価値は下落し、当ファンドの基準価額が下がる要因となる可能性があります。

## ■ 流動性リスク

急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券を売買できないことがあります。このような場合には、効率的な運用が妨げられ、当該有価証券の価格の下落により、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

## ■ 解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動リスク

解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券等を大量に売却しなければならないことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって、保有有価証券を市場実勢と乖離した価格で売却せざるをえないこともあり、基準価額が大きく下落することがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません





# 収益分配金に関する留意事項



分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

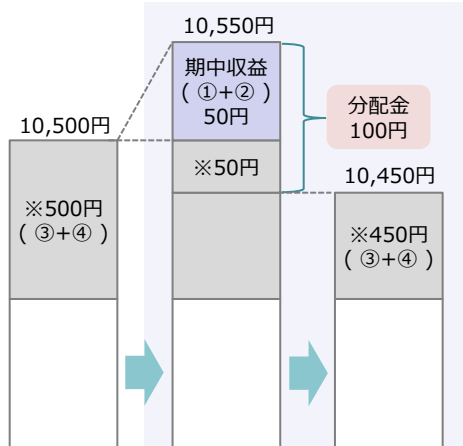
投資信託で分配金が支払われるイメージ



分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

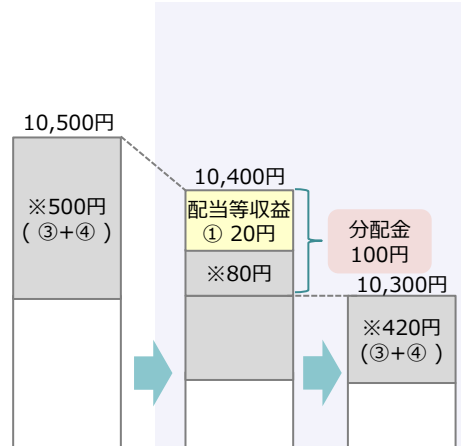
## 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



※分配対象額500円  
※50円を取り崩し  
※分配対象額450円

前期決算日から基準価額が下落した場合



※分配対象額500円  
※80円を取り崩し  
※分配対象額420円

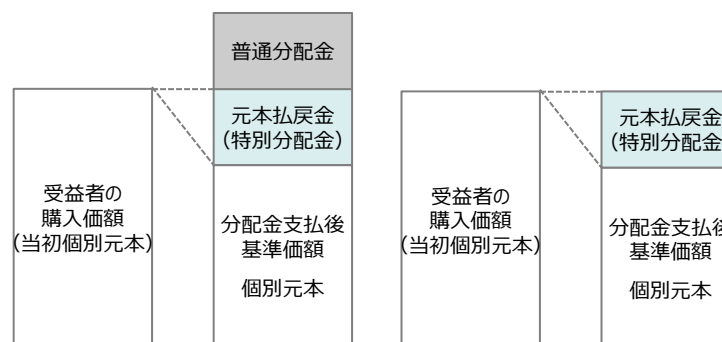
分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上図はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆、保証するものではありません。

受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないしすべてが実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上りが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金） 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）の「手続・手数料等」の「税金」をご参照ください。



# 一般的な留意事項



- 本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。お申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめあるいは同時にお渡しますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 本資料におけるデータや分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは示唆するものではありません。
- 本資料は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が作成基準日現在で信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性および完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されたキャピタル アセットマネジメント株式会社の見解や見通しは本資料作成時点のものであり、市場環境等の変化により、予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、値動きのある証券等（外貨建て資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではありません。
- 投資信託は金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家に帰属します。
- 投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 登録金融機関から購入した投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。

## 【委託会社の問合せ先】

キャピタル アセットマネジメント株式会社

ホームページ <http://www.capital-am.co.jp/>

電話番号 03-5259-7401（毎営業日 9：00～17：00）



< ヌモ >



委託会社の問合せ先

キャピタル アセット マネジメント 株式会社

ホームページ <http://www.capital-am.co.jp/>

電話番号 03-5259-7401 (毎営業日 9:00~17:00)